

# 図書館司書課程学生の学習に対する意識 — GTA による分析 —

木内 公一郎  
Kinai Koichiro

抄録：この研究では図書館司書課程の学生たちの学習に対する意識の変容を追跡調査した。

本学1年生5名に対して、インタビューを実施し、その記録をグラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）によって分析し、主要な概念を導き出した。その結果、学生たちは実感をともなった知識を求めていることがわかってきた。

## 1. はじめに

竹内らの研究「司書・司書教諭資格取得希望学生の意識についての調査」<sup>i</sup>によると、学生の「図書館のイメージ形成は公共図書館によって形成されている。このような意識を持っている学生たちが、図書館情報学教育あるいは資格教育をうけることによってどのように意識を変えて行ったかという、ある種の追跡調査が必要ではないかと思われる。」という提言がされている。

24年度に実施される新カリキュラム改定に向けて、学生のニーズを意識した、学習プログラムを構築する必要がある。そのためにも学生の意識の構造を把握することが大切である。

この小論では図書館司書課程の学生にインタビューを行い、学習に対する意識の変容を解明しようとするものである。

## 2. 研究方法について

グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）を採用した。GTAとは、データに密着した分析から概念、理論を生成する定性的な研究方法である。社会学者のグレーザーとストラウスが開発をした<sup>ii</sup>。GTAはゼロの状態から収集されたデータを基本にして理論を構築するため、未開拓の分野を研究したり、特定の領域についての理論を構築したりすることに最適である。

### (1) GTA の手順<sup>iii</sup>

#### I. オープンコーディング

データの切片化し、データ毎にプロパティ（特性）とディメンション（次元）名、ラベル名をつけて、カテゴリーにまとめる

## II. 軸足コード化

プロパティ（特性）とディメンション（次元）によって、カテゴリとサブカテゴリに関係づける

## III. 選択コード化

コアとなるカテゴリと複数のサブカテゴリを繋ぎ合わせ、理論を構築する。

### (2) データ収集の方法

図書館司書課程を履修する1年生5名に対して、半構造化インタビューを実施した。

（インタビュー実施：2009年3月）

インタビュー時間は一人につき、30分から1時間以内である。そしてこれらのインタビューデータを切片化し、個々にプロパティとディメンション名、ラベル名を付与した。

## 3. 学生へのインタビュー

### (1) 妥当性について

インタビューには2つの問題がある。特に学生へインタビューする際の問題点である。一つは道徳的な問題である。教員と学生、評価者と被評価者という関係がある以上教員による誘導や学生の迎合の可能性を捨てきれない。また教員にとって”好ましい”学生を選ぶ可能性もある。第2に方法的な問題がある。教員と学生の親しい関係がインタビューに影響するということも可能性としてある。

そもそも調査対象者の選定（どのように選ばれたのか）の基準は何かということも指摘されるかもしれない。内容の真実性ということも問われる。それには内容の一貫性があるかということが真実性を検証する基準となるであろう。<sup>14</sup> 今回の選定条件は2点である。第1条件は「多くを話してくれる」ことである。つまり自分の思考や感情を豊かに表現できることである。普段の授業中の様子や短大生活の様子から判断した。2番目の条件は「図書館」「図書館情報学」に関心が高いと認められる学生を選んだ。「関心の高さ」は社会参加への意欲、授業での参加態度で判断した。

### (2) 被インタビュー学生の属性

5人の学生はインタビューを実施した時点で1年生春季休暇中の2月から3月である。2年に進級する直前ということになる。すでに40単位前後を取得している。図書館司書科目はこの時点で以下の科目を取得している。

図書館概論、図書館サービス論、資料組織概説Ⅰ・Ⅱ、資料組織演習Ⅰ、図書館経営論、図書館資料論、情報機器論など

また、インターンシップ（一般企業も含む）、図書館実習（学外・本学附属図書館）を全員が経験している。その他、全員が「情報検索基礎能力試験」を受験し、合格している。

## 4. コーディング

インタビューデータを切片化し、プロパティ（特性）とディメンション（次元）の単位で分

析し、表にした。さらにデータ毎にラベルを付与していった。表1はデータからより大きな概念（カテゴリ）毎にまとめたものである。

表1 コーディング

No	データ	プロパティ	ディメンション	ラベル
	カテゴリ1：図書館運営の意外な難しさ			
10	木内「どのへんが大変だと思いましたが」 Cさん「実習とかやってみて、レファレンスサービスだったり、会計とかを考えるのが、とても大変でそんなことをしているとは考えていなかったの、大変そうなイメージがあります。」	図書館業務のイメージ	大変難しい	図書館業務の難しさ
38	木内「図書館の問題点としてどんなことが問題だと思いますか？」 Dさん「やっぱり、実習行ってみて、本がいっぱいになってしまっ置く場所がないとか、図書館を必要としていないという考え方の人もいるということや、そこらへんが一番問題になっていると感じています。」	図書館の問題 図書館の問題	書庫の不足 一般市民の図書館認識	様々な問題を抱える図書館
24	木内「現在、いろいろ勉強してみても、司書や図書館のイメージが変わって来ていると思うんですけど、そのへんは現時点ではどうですか」 Dさん「えーと、図書館というと、あまり問題はないとおもっていたんですよ。勉強してみている問題点はあるんだなと思って、そういうところですか。あとは貸出のカウンターだけの作業だけかと思っていたら、裏でもいろいろな、他の図書館との協力とかやっていたり、ブックカバーの作業をやっていたり、いろいろと仕事しているんだなと思いました」	図書館の仕事 図書館司書の仕事	問題を抱える カウンターだけではないバックヤードの仕事	様々な問題と裏方の仕事
29	木内「図書館や図書館司書の問題点は何かありますか。例えばここは改善したほうがよいのではないかとか」 Cさん「私のいった図書館では車椅子が通れるような道もなく、とても狭いし、がたがたして、そういったところはサービスになっていないかなと思います」	実習した図書館の問題点	障害者に対応できていない図書館	障害者にとって不便な図書館施設

8	Aさん「やっぱり（図書館に）若い人というイメージがないので、大変ですね。」	大きな問題	若者が少ない	若者が少ない図書館
2	木内「入学後1年たったの（図書館の）イメージはどうですか」Aさん「図書館をやっていくということが難しいんだというふうなイメージをもって、あと仕事はほんとう、本の運び出しとか、やらなくてはいけないということがわかりました。運営が大変なんだということが一番印象に残っています。」	図書館の運営のイメージ やらなくてはいけない仕事 図書館をやっていくこと	大変さ 多い 難しい	運営の困難さの認識
カテゴリ2 図書館の比較と改善				
3	「図書館司書に関しては、村のボランティアは村の小さな所なので、こんな感じかなと思ったのですが、大きな図書館を見ていると運営も大変だし、やることも一杯で、大変だなと思いました。」	地元図書館への関心 村の小さな図書室と大きな図書館を比較することへの関心	高い	図書館を比較してみる（客観性）
4	「小さな図書館は小さな図書館でやらなくてはいけないこともあるんだけどできないというのも大変だし、大きなところは大きなところで全体の組織として見なくてもいけないところは大変だなと思いました。大きな図書館には見学には行っていませんね」	大規模図書館組織への関心 小さな図書館でやらなくてはならないこと	高い 多い	図書館への具体的な関心（比較）
5	木内「図書室でボランティアとしてやっていたということですね。それはお友達といっしょにやっていた？」 Aさん「いや、（村の）有線放送で募集していたので、だからそういう学校に進学しようとしていたので、やってみようと思いました。だから結構大人の話も聞けて、こんな風にしていったらいいんじゃないかという意見言っていたんですけど、でもやはりお金がないとかの話に結局ないということになって」	図書館を改善する意欲 入学前の準備を行う意欲 大人への提案や意見する力	高い	地元図書館の改善と現実

7	<p>Aさん「まー、新卒、卒業してすぐには考えていないんですけど、将来的はあの村の図書館はどうにかしたいと思っています。いまだに本の裏にカードがあるじゃないですか、個人情報も何もないなと思ったりして、もう少しどうにかできないかなどの改善点はいっぱいあると思うのですよ。そうですね。歳を重ねて、人にいろいろと教えられるようになったら、やってみたいなどは思っています。あの小学校中学校の図書館も連結したそういうのもできるんじゃないかなと思っているんですけど。で今専門の人がいないらしいのですよ。だから発展していかないらしいので・・・。」</p>	<p>地元図書館の改善アイデア 将来図書館司書へなる意欲 具体的な改善アイデア</p>	<p>多い 高い 小学校と中学校の図書館を連結する</p>	<p>具体的な改善アイデア</p>
<p>カテゴリ-3 職業意識の高まり</p>				
11	<p>木内「お客さんとの対応はいかがですか」 Cさん「答えられるのもあったんですけど、答えられない難しいのもあって、児童書とか、何が今話題なのか、ぜんぜんわからなかったの、聞かれたときはわからなくて大変でした。」</p>	<p>レファレンスへの対応 今の話題についていけないという不安と悔い</p>	<p>極めて困難 強い</p>	<p>レファレンスの困難さの認識</p>
15	<p>木内「短大に入ってから職業に対する考え方は変わりましたか」 Cさん「短大に入ってから職業に就くのが大変だということがわかりましたし、社会のためにやっていかなかきゃということはそういう考え方に変わりました。」</p>	<p>職業に就くことへの理解 社会貢献への意欲 職業の意義</p>	<p>促進 社会のために役立つ</p>	<p>社会貢献への意欲の高まり</p>
19	<p>木内「職業に対する考え方は変わったのでしょうか。授業を受ける、実習・インターンシップに行くというなかで自分の思い描いていたことと違い、就職活動もしているのそのへんはこう、自分のなかで変わったところはありますか」 Dさん「あの実際、就活をすることになって、なんか高校のときとか（短大）1年生の前半のときとかは就職はまだまだ先だと思っていたんですけど、なんかやっぱり現実なんだと実感しました。」</p>	<p>インターンシップの効果</p>	<p>就職を現実化する</p>	<p>就職活動を身近にしたインターンシップ</p>

40	<p>木内「南部図書館、今しゃべってくれた内容以外で学んだことや印象に残っていることはありますか」 Dさん「うーん、これ該当するかわからないんですけど、そういうふうにあの図書館の司書課程をまなんだりとか、あと実習いってみて、新聞とか読んでいても、図書館の記事がでると、それに目を向けたりとか、他の地域の広報誌とかうちに来て、図書館のお話会やっていますとか、そういうのを見たりとか、図書館に関することを結構見るようになりました。」</p>	図書館実習の効果	図書館への関心の高まり	図書館への関心を高めた実習
カテゴリ 4 知識の広がりとながり				
18	<p>木内「短大における実習はいかがでしたか」Dさん「目録をつくるのとかは現在パソコンがあるので作りやすいのかなと思うんですけど、あんなふうに手で書いてつくるのかと思うと大変だなと思いましたけど、少しおもしろかったです。実際に体験できてよかったなと思いました。」木内「分類をやってましたよね。あれはいかがでしたか」Dさん「あれは難しい(笑)」木内「正答率はいかがでしたか」Dさん「あまりよくなかったです。実際あまりよく知らない世界がたくさんあるなと思いました」</p>	<p>分類への理解  体験できてよかったこと</p>	<p>未知の世界への扉  目録</p>	<p>体験と未知の知識</p>
6	<p>木内「情報検索の試験や対策講座を受けてみて、考え方が変わったとかありますか」 Aさん「今まで知らなかったことがわかって、私のなかでは良かったです。なんかパソコンの深いところ、例えばネットワークでつながっているなんて全然わからなかったんですけど、知っているものがつながったんだということがわかって、あれは私にとって良かったです。勉強できてよかったと思います。基礎とついているとさらに上を目指したくなりますよね」</p>	<p>情報検索基礎能力試験の影響  知っている者同士がつながるということ  基礎から応用試験への意欲</p>	<p>大きい  大きな発見  強い</p>	<p>新しいつながりの発見</p>

カテゴリ5 コミュニケーションと顧客サービス指向				
35	Dさん「図書館の授業だとか、サービス論とか経営論とかのお客様に応えていくみたいな感じであの実際に役に立ちそうだと感じたし、面白かったです。」 木内「お客様のサービスに関連しているところが面白いと感じる？」 Dさん「はい。そうです。」	図書館の授業で役にたったこと	図書館経営論、サービス論におけるお客様サービスの話題	顧客サービス中心の図書館科目
39	木内「8番目の質問で、どういう授業が楽しいのかなというのを聞いてみたいのですが」 Dさん「やっぱり、私の性格からいって、すわりっぱなしよりも動いていて実践的なほうが楽しいと思ったり、コミュニケーション論もずっと、話して話してという感じだったので、司書課程でいうと前期に学んだ図書館のイメージをもって、実習にいったのでこういう風にやっているんだと肌で感じられたし、学んだあとに実践してみるとというのが一番充実しているなあと思います。」	実践していること コミュニケーション論 充実していること	楽しい 楽しい 授業で学んだ後に実践し、肌で感じられたこと	実践と楽しいコミュニケーション
14	木内「司書課程以外の授業でもう一回受けてみたいという授業はありますか。」 Cさん「コミュニケーション論です。いつもは決まった人しか当てないのですが、その授業はいろいろな人と接して、話したりとかしないといけないので、その人のことがよくわかったり、ちょっと人見知りのところがあるので、そういうところはちょっと直せたかなと思います。」	コミュニケーションの改善 知らない人と話す	少し役立った 他人がわかるようになる	他人への理解とコミュニケーション
カテゴリ6 自主的な学習				
36	Dさん「明らかに高校と短大だったら、短大のほうがぜんぜん意欲的に勉強しています。やっぱり高校の方はあの教わっている、習っているだけという感じなんですけど、短大は自分はその勉強したいということもあつたし、レポート中心じゃないですか、それで自分からいろいろと調べて、という所が一番変化したところだな。今はすごい意欲的、積極的にやろうとしているんですけど、高校の時の勉強はこんなに意欲的ではなかったです。私。」	短大における学習 学習方法  学習に対する姿勢	意欲的な学習 レポートによる調査 自分から調べる	自ら進んで学習する

30	<p>木内「高校までと入学の学習方法について大きく変わったことはありますか」 Cさん「高校まではあんまり勉強しなくて、短大に入ってからは勉強するようになって、自分から教科書を読んだりするようになりました。」</p>	<p>高校から大学へ学習法の変化</p>	<p>自主的に教科書を読む</p>	<p>自主的な学習</p>
<p>カテゴリ7「難しさ」への恐れ</p>				
27	<p>木内「情報検索基礎能力試験の試験と講座含めての印象や感想を教えてください」 Cさん「教科書を初めてみて、すごい難しいそうで受かる気がしなくて、こんな難しい問題できるかなとか、そういう風に思っていました。」</p>	<p>「難しい」への恐れ</p>	<p>強い</p>	<p>難しさへの恐れ</p>
12	<p>木内「教育内容についてなんですけど、科目毎のイメージや感想をおしえてください」 Cさん「あんまり覚えていないですけど(笑)。図書館司書の取得をするためにこんなにたくさん勉強をしないといけないかなとか、科目名をみただけですごく難しそうで、気分的ないやな感じがあって、勉強してみると自分のわからなかったこととか、よくわかるようになって、いちばん難しかったのが目録とかそういうことなんですけど、目録は勉強する前はどのようにしていたのかわからなくて、適当とかそういう感じだったんですけど、ちゃんと決まりがあったということもわかって、図書館に行く時にこれは総記だとか、そういう風にわかるようになったのですごく為になっています。」</p>	<p>図書館司書科目の最初のイメージ 科目名 勉強した後</p>	<p>難しい/印象が薄い/多い 気分的ないやな感じ わからないことがわかるようになる</p>	<p>むずかしさへの恐れと理解の進展</p>
<p>カテゴリ8 実践への強い意欲</p>				
22	<p>次の質問で勉強してみて、現在の図書館や図書館司書の問題点はなんですか」 Dさん「授業でもいいですか、机に向かう授業も大切だと思うんですけど、なんか実際体験してみないとわからないこともあるので実践的のがあるといいなと思います。」</p>	<p>実践への意欲 机上の学問</p>	<p>大変強い 価値減少</p>	<p>実践への意欲と 机上学問の軽視</p>



20	木内「9番目の質問なんですけど、自分でやる学習がどのように変わったかという意味なんですけど、高校と短大では試験の方法も変わったと思うんですけど、何か変わったことがありますか」 Dさん「高校までは机に座って、ものを書いたりが多かったと思うんですけど、短大に入って実践的なものをしてみたいと思うようになりました」	学習方法の変化  高校までの学習	実践への強い指向 机に座ってものを書く	実践への強い指向
21	木内「学習する時間とかはどうですか」 Dさん「高校のときはテスト前になると机に向かうんですけど、高校の時に比べると少なくなっているかなと感じます。」	短大入学後の机に向かう回数	減少	勉強時間の減少
カテゴリ-9 司書イメージのギャップ				
9	木内「短大に入学する前の図書館や図書館司書のイメージについて教えてください」 Cさん「図書館はそんなにイメージというのはなかったんですけど、図書館司書はただ本を貸借するだけのちょっと簡単な仕事だと思っていたんですけど、実際はぜんぜん違ってとても大変だと思いました。」	図書館司書のイメージ ギャップ 図書館司書は簡単な仕事	大きい 全然違う	司書のイメージ ギャップ
1	木内「入学前の図書館や図書館のイメージはどうですか。」Aさん「静かに座って図書館で仕事しているとイメージですね。」	入学前の図書館の仕事のイメージ	静かなイメージ	静かな司書
16	木内「短大入学前の図書館と司書のイメージを教えてください」 Dさん「図書館司書はそんなに動き回るイメージがなくて、事務作業みたいな感じだったり、貸出返却を扱っているとか思っていました。現在は体験してみても、書庫に走り回ったり、思っていたよりも動くのだなと思いました。」	図書館司書のイメージ変化 具体的な図書館司書のイメージ（入学前） 具体的な図書館司書のイメージ（入学後）	大きい 貸出返却をやっている人 走り回る人	走り回る司書
17	木内「他の職員さんとのコミュニケーションはとれましたか」 Dさん「図書館職員の方のイメージは真面目というイメージがあったんですけど、ぜんぜんそんなことなく、明るいし、気軽だし、印象が変わりました」	図書館職員のイメージ	明るく、気軽	明るく気軽な司書

23	<p>木内「短大入学前の図書館司書や図書館にイメージは何かもっていましたか」</p> <p>Eさん「図書館はどういうイメージかな、やっぱり夏休み行くとあの受験生、中学生とかがいっぱい勉強しに来ていたり、あと子どもがすごい絵本読んでいたりという南部図書館ってわいわいしているんですね。静かな時は静かなんですけど、そう言うイメージがあって、図書館司書の人もありと静かな人が多い、本好きそうだなというイメージがありましたね。」</p>	<p>入学前の図書館のイメージ</p> <p>入学前の図書館司書</p>	<p>にぎやか</p> <p>本好きで静かなイメージ</p>	<p>にぎやかな図書館と静かな司書</p>
33	<p>木内「他の職員さんとのコミュニケーションはとれましたか」</p> <p>Dさん「図書館職員の方のイメージは真面目というイメージがあったのですが、ぜんぜんそんなことなく、明るいし、気軽だし、印象が変わりました」</p>	<p>図書館職員のイメージ</p> <p>明るく気軽な図書館職員</p>	<p>明るく、気軽</p>	<p>明るく気軽な図書館職員</p>
34	<p>Dさん「ブライダルの世界は華やかだと思っていたのですが、実際やってみるとその職員の方も言っていたのですが、裏方にまわるので地味な作業だよと言われて、あと私と同年の人が働いていたりして、すごい行動が早くて、もちろん慣れとかあるんですけど、そういうことは見習わないといけないなと思いました」</p> <p>木内「図書館の仕事と比較してみたいと思いますけど」</p> <p>Dさん「結構動き回るというのは同じかなと思いました」</p>	<p>ブライダルと図書館の仕事の共通点</p>	<p>動き回る仕事</p>	<p>良く動く仕事</p>
<p>カテゴリ 10 資格取得の動機</p>				
31	<p>木内「高校生のときに図書館司書になりたいと思った理由はありますか」</p> <p>Dさん「県立図書館に行った時にあの一、職員の方に探している本の場所を聞いたときとかにすごく丁寧に教えていただいたので、私もそういう人になりたいと思ったのが理由ですし、あと本が好きという理由もあります。」</p>	<p>県立図書館における経験</p> <p>自分の嗜好</p>	<p>司書の丁寧な対応</p> <p>本が好き</p>	<p>本と司書の豊かなイメージ</p>

28	木内「図書館司書資格取得目的はなんですか」 Cさん「高校の後半から図書館司書になりたいと思っていて、本と図書館が好きだったので、中学校高校と図書委員をやっていて、司書に向いているなと思って来たんです。」	中学高校の経験 自分の志向  自分の嗜好	図書委員 司書に向いている 本が好き	自分の将来を決めた図書委員の経験
カテゴリ 11 他業種への視点				
26	木内「職業とかに対する意識は変わりましたか」 「実際工場勤務とか、やだなと思いました。でもこうしてモノが作られているのかとか、それを作っている人の思いが込められているのかとか、モノとかを大切にできるようになりました。職業に対する考え方、イメージ、実際にいいなと思ったので、真剣に取り組んでいました。工場のイメージというただの流れ作業でパッパッパとやっていけばいいんだというイメージがあったんですけど、この部品はこうだから、こうしないといけないよとちゃんとコミュニケーションとりながら、やってたんで、コミュニケーション大事だなと思いました。」	事前の工場勤務へのイメージ 事後の工場勤務へのイメージ 社員のモノづくりへの思い モノを大事にする心 現場コミュニケーションの大切さ	あまりやりたくない。 気持ちの変化  賞賛する気持ち 深い認識 深い認識	モノ作りのイメージの転換
カテゴリ 12 図書館は簡単な仕事				
10	木内「どのへんが大変だと思いましたか」 Cさん「実習とかやってみて、レファレンスサービスだったり、会計とかを考えるのが、とても大変でそんなことをしているとは思っていませんでしたので、大変そうなイメージがあります。」	仕事の内容	大変そうには考えていなかった	難しくない仕事
24	木内「現在、いろいろ勉強してみても、司書や図書館のイメージが変わって来ていると思うんですけど、そのへんは現時点ではどうですか」 Dさん「えーと、図書館というと、あまり問題はないとおもっていますよ。勉強してみている問題点はあるんだなと思って、そういうところですか。あとは貸出のカウンターだけの作業だけかと思っていたら、裏でもいろいろな、他の図書館との協力とかやっていたり、ブックカバーの作業をやっていたり、いろいろと仕事しているんだなと思いました」	図書館業務	問題がない	問題点がない図書館

## 5. カテゴリ関連図

図1と2はカテゴリを関係づけて、表現するカテゴリ関連図である。この際にカテゴリーを現象ごとに分類するための枠組みをパラダイムという。パラダイムは状況、行為・相互行為、帰結の3つの部分で構成される。<sup>v</sup>

切片化されたデータを分析した結果、図1にあるように12カテゴリを3つに分類し、より大きな概念であるコアカテゴリを作成した。カテゴリ名は以下の通りである。コアカテゴリ1:「簡単なイメージと不安」、コアカテゴリ2「授業の影響」、コアカテゴリ3:「実習の影響」を抽出することができた。コアカテゴリ1は司書課程履修直前の状況を表している。高校時代に図書委員をやっていた、図書館司書との楽しい交流等の経験がきっかけとなっている。しかし、短大入学して、実際の科目名、テキストを見ると難しさへの不安がかき立てられている。このような不安が先行するなかで授業が始まる。また、図書館の仕事は簡単で問題がないと考えていた学生もいる。入学前のイメージと入学直後の履修登録、さらに勉強が始まってみると意外にも問題が多く、仕事も多様なことに驚いているのがこの状況である。簡単な仕事で済む図書館というイメージを持っていたからこそ、いかにも難しい科目名や授業内容に戸惑っているであろう。

コアカテゴリ2:「授業の影響」とコアカテゴリ3:「実習の影響」では様々な科目を履修し、図書館実習やインターンシップを経験する中で、様々な具体的な認識を持つようになる。パラダイム分析では帰結に該当する。本学における図書館情報学教育の学生に対する影響が読み取ることができる。まずコアカテゴリ2の特徴としては現場における実践指向が強いことである。それはデータ No.22「授業でもいいですか、机に向かう授業も大切だと思うのですが、なんか実際体験してみないとわからないこともあるので実践的のものがあるといいなと思います。」、データ No.20「高校までは机に座って、ものを書いたりすることが多かったと思うのですが、短大に入って実践的なものをしてみたいと思うようになりました」などに表われている。このように授業の印象は限定的である。それでも授業では「コミュニケーション論」や図書館サービスや顧客サービスに関する科目に強い興味を示している。また分類を通じて知識の広がりを感じていることも興味深い。(データ No.18「(分類実習の正答率は)あまりよくなかったです。実際あまりよく知らない世界がたくさんあるなと思いました」)

コアカテゴリ3:「実習の影響」は実習を通じて認識した図書館や司書についてのカテゴリである。特徴としては司書に対するイメージが大きく変化していることである。静的なイメージの司書が実際に接してみると明るく、気軽で、活動的なイメージを持つようになる。

図書館運営に関しては、様々な問題があることに意外だという印象を持っていることが興味深い。多様で多くの仕事、職員に若年層が少ないこと、障害者に対応する設備がない図書館など、学生の視点から問題意識をもっていることがわかる。

コアカテゴリを比較すると授業と実習に対する意欲の違いがあることがわかる。学生の印象では実習が勝っている。例えばデータ No.39「やっぱり、私の性格からいって、すわりっぱなしよりも動いていて実践的なほうが楽しいと思ったり、コミュニケーション論もずっと、話し

て話してという感じだったので、司書課程でいうと前期に学んだ図書館のイメージをもって、実習にいったのでこういう風にやっているんだなと肌で感じられたし、学んだあとに実践してみるとというのが一番充実しているなあとと思います。」(他にはデータ No.12、22) 授業における知識も決して軽視していないが、実感を伴った経験を重視していることがわかる。

既述のとおり、授業に関する印象では「コミュニケーション論」や顧客サービスに関する科目に興味を示す傾向にある。これは現場の図書館サービスが対人サービスを重視しており、それが教育内容にも反映されているからである。また授業と実習経験の相互作用の影響も考えることができる。実習では必ずカウンター業務を体験している。特に実習の事前指導ではカウンター業務の注意点をくり返し説明している。このような要因から、サービスに強い興味を持つようになるのであろう。

コアカテゴリ 1：簡単そうなイメージと不安

カテゴリ 7：「難しさ」への恐れ

カテゴリ 10：資格取得の動機

カテゴリ 12：図書館は簡単な仕事

コアカテゴリ 2：授業の影響

カテゴリ 1：図書館運営の意外な難しさ

カテゴリ 2：図書館の比較と改善

カテゴリ 4：知識の広がりつつながり

カテゴリ 6：自主的な学習

コアカテゴリ 3：実習の影響

カテゴリ 3：職業意識の高まり

カテゴリ 5：コミュニケーションと顧客サービス指向

カテゴリ 8：実践への強い意欲

カテゴリ 11：他業種への視点

カテゴリ 9：司書のイメージ変化（静から動へ）

図1 カテゴリ関連図 (1)

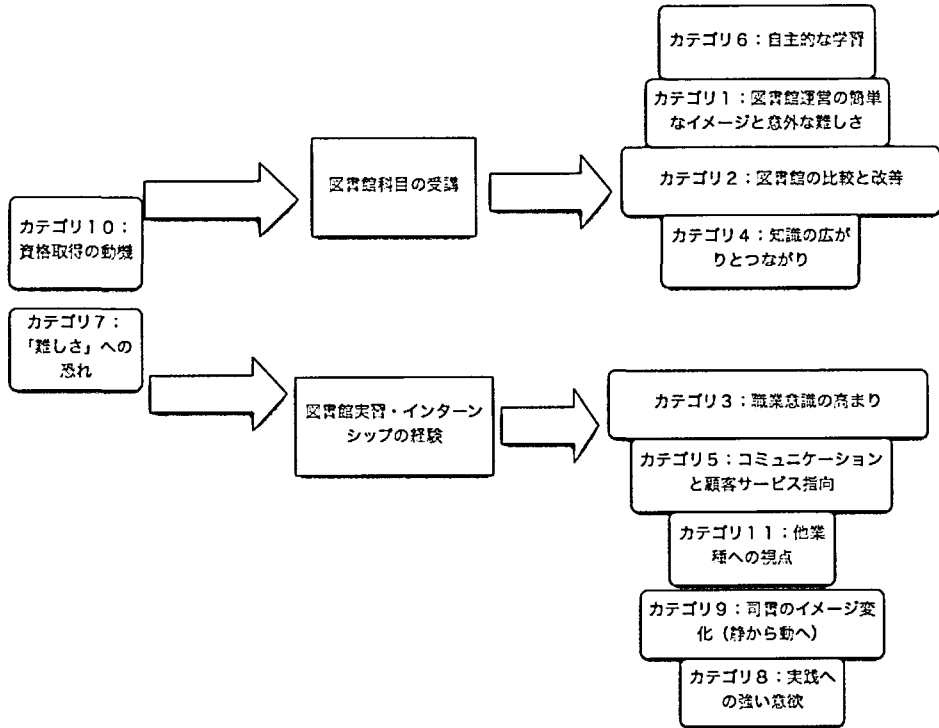
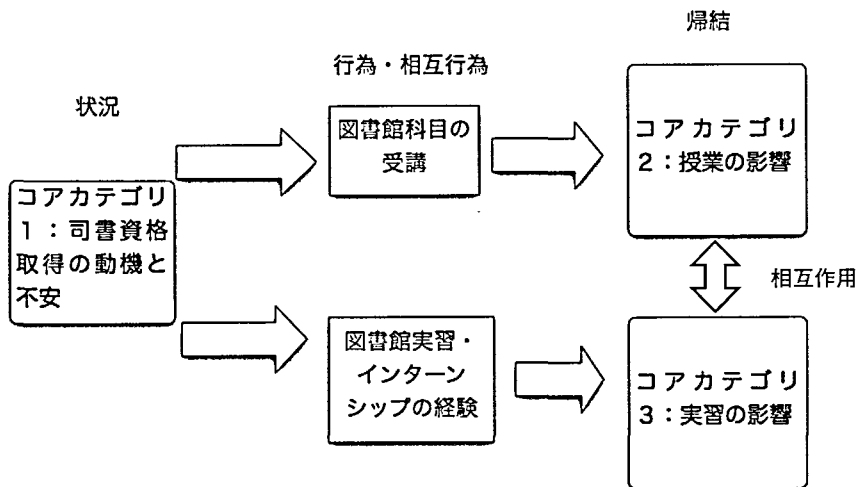


図2 カテゴリ関連図 (2)



## 6. まとめと課題

インターンシップや図書館実習については学生たちに強い印象を残していることがわかった。学生たちは実感を伴った知識を求めている。そして図書館という組織を授業や実習を通じて現実的に認識し、断片的に理解している。しかし、実習において経験できる範囲は少なく、それが図書館業務のすべてであるという勘違いをしていることも推測される。特に学生たちの印象に強く残っている対人サービスについては教育上の注意が必要である。図書館は確かにサービス業ではあるが、表面的な明るく、親切丁寧な対応だけ済まされる仕事ではない。レファレンスサービスのような仕事は深い専門的知識と豊富な経験というバックボーンを持っていることが前提である。

実習において現場の図書館司書がそのような専門性を持っていることを学生に見せていないのか、それとも本当に専門性が低下しているのか、学生たちが見逃しているだけなのか、この調査だけでは判断できない。

このような疑問や問題が残されているはいるが、学生たちがバランスの良い知識体系を身につけることができるように教育しなければならないことは確かである。将来はサービスの現場から離れ、管理職の立場から図書館に関わることもあり得るからである。

講義科目の印象が薄いのは改善の余地が大幅にあるということでもあり、授業計画全体の見直しが必要であろう。個々の授業のなかで知識を実感できる仕組みを取り入れることも必要である。すでに本学ではケースメソッドやロールプレイングを取り入れているが、今後もその充実に努めたい。また図書館イメージのギャップを埋めるために、入学前のオリエンテーションや高校図書室との連携を充実させていくことも重要である。

最後にインタビューに協力してくれた学生の皆さんに感謝します。(了)

<sup>i</sup> 竹内比呂也他. 司書・司書教諭資格取得希望学生の意識についての調査. 日本図書館情報学会.  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/liper/index.html> 参照日 2010.9.1

<sup>ii</sup> B.G. グレイザー, A.L. ストラウス. 後藤衛他訳. データ対話型理論の発見. 新曜社, 1996年

<sup>iii</sup> Anselm Straus, Juliet Corbin, 操華子他訳. 質的研究の基礎グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 2版. 医学書院, 2004年

<sup>iv</sup> 桜井厚. インタビューの社会学 ライフヒストリーの聞き方. せりか書房 2002年

<sup>v</sup> クレイグヒル滋子. 質的研究法ゼミナール. グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ. 増補版. 医学書院 2008年 p152